

■e-黒板ニュース（第30号）：英語の授業・テーマはバリエーション

本日訪問したのは、東京大学教育学部附属中等教育学校です。光村図書の国語のデジタル教科書、教育出版の社会科のe-教科書、東京書籍の社会科のデジタル掛図、日本文芸出版の図工のe-教科書、に続く第5弾となります。教材は三省堂の「英語」のe-教科書です。そして、e-黒板は、H社のフロント型（電磁誘導方式）です。

準備の時にパソコンが古かったため、インターフェースが合わず、十分な確認ができなかったそうです。だから、三浦先生にとっては、今日がe-黒板を使った初めての授業です。しかも、ほとんど「ぶっつけ本番」とか。

動画の再生は？ 音声の出力は？ はたしてうまくいったのでしょうか？

今号の目次：

=====

1. 報告：e-黒板&e-教科書を使った英語の授業（東大附属中等教育学校）

=====

お友達への再配信またはご紹介は、ご自由にどうぞ。会員の皆様からの投稿もお待ちしております。

宛先はいつでも ekokuban@cec.or.jp です。

e-黒板研究会のホームページ

<http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban>

をご参照ください。e-黒板ニュースのバックナンバー等もご覧いただけます。

1. 報告：e-黒板&e-教科書を使った英語の授業（東大附属中等教育学校）

東京の新宿駅から、東京メトロ丸の内線で3つ目の中野新橋駅から南へ徒歩10分。東京大学教育学部附属中等教育学校に着きました。中学校と高等学校が併設されています。中高一貫教育が実施されています。

授業を見学させていただいたのは、新教育棟3階にあるOA・視聴覚室4という特別教室です。中学三年生の英語の授業。初めて電子情報ボードを用いての英語授業になります。

教科書は、三省堂のNEW CROWN 3です。活用ソフトは、「NEW CROWN英語学習CD-ROM」

e-黒板はフロント型電子誘導法式の電子情報ボード。

よく研究された授業方法と、生徒全員が50分間集中して参加しているクラスに感銘を受けました。3時間目は18人のクラス、5時間目は20人のクラスでした。最初の方の授業をレポートします。

○10:40～ 最初の5分間は映画（DVD）の視聴

先生の説明によると、「早く教室に集まって欲しいので」ということでしたが、子どもたちが今、もっとも関心のある映画（DVD）を毎回、授業の最初の5分だけ写すそうです。次の英語の時間にはその続きが映写されます。

厳密に著作権のことをいうと、いくら授業で使うとはいえ問題があるのだと思うので、タイトルはいいませんが、子どもたちは興味津々で、少し暗くした教室で日本語字幕スーパーの英語劇に集中しています。きっとヒアリング能力も日増しにアップするのは間違いないでしょう。

○10:45～ いきなり、ビンゴ！

5分間で映画を終わらせると、「もっと見たいと思いますが」といいつつ、先生は英語で話し始めます。いきなり、プリント用紙を配っています。5×5の升目の中央には、「Barrier Free」と書かれています。生徒たちは、それぞれに下段に書かれた単語を勝手に選んで、猛烈なスピードで升目に記入しています。記入し終わると、いよいよビンゴです。

先生が、次々と単語を読み上げていきます。タテ・ヨコ・ナナメに5つ読み上げられた単語が揃ったらビンゴですが、この教室では特別なルールがあるらしく、1組ではなく、3組か4組そろったところで、「ビンゴ！」と一人の生徒が手を挙げて叫んでいました。そして、先生が単語を読み上げるたんびにあちこちで「ビンゴ」と手を挙げていきました。終わると、最初にビンゴを完成させた生徒に「あとでプレゼントをあげます」先生が英語で話していました。

この「ビンゴ」は、英語の筆記能力、書き取り能力、単語の習得が身につく方法として、いろいろな学校で取り入れられているそうです。授業見学に参加されていた、三省堂の社員の方から後で聞きました。

○10:52～ 復習から始める

先生は、「次は、前回の復習です」といって、「NEW CROWN英語学習CD-ROM」3年Lesson 8の画面を電子情報ボードに提示しました。

「フラッシュカードに挑戦」という大きな文字が表示されています。先生が電子情報ボードの数字をペンで押すと、瞬間的に単語が現れます。みんなで発音し、次に、お手本の声（ネイティブスピーカーの声）を聞きます。その繰り返しです。

○11:00～ 動画のスキットをレビュー

教科書の内容を教壇の先生が説明しているビデオが映し出されます。スキットというのでしょうか、NHK教育TVでもよく見かけるタレントがもう一人を会話している様子が写されています。英語の会話が、実際にはどのような場面で使われるのかがよくわかるようになっていきます。

初めての授業だったので、先生が電子情報ボードの操作で迷ったとき、H社のSEが声でHelpしていた場面が1回だけありました。

○11:05～ 「デパートで売り場などの場所を聞く」の練習

また、プリントが配られました。デパートで「家具売り場はどこですか?」といった質問をして、答えを聞きながら6つの問題に答えていくためのプリントです。

6つの問題のうち、だれもが1だけは回答がすでに書かれているプリントをもっています。答えがかかっている番号がそれぞれ違うので、生徒たちは他の生徒に質問して答えてもらうことで、プリントに答えを書き込むことになります。したがって、椅子にすわっているだけでは、残り5つの答えがわかりません。全員立ち上がって、クラスメイトに英語で質問して、答えを見つけていきます。あちらこちらで、英語が飛び交っています。「おもちゃ売り場はどこですか?」「私はしりません」「事務用品売り場はどこですか?」「2階です」といった具合です。

ぼ～っとしている生徒は、一人もいません。

○11:15～ セクション2に進む

セクション2はディクテーション(書き取り)です。e-教科書の教材を使って、文章を表示しない状態で、ネイティブが文を読み上げます。それをプリントに書き取っていきます。穴埋め方式です。

○11:20～ 読みの練習

文章を短時間表示し、すぐに発音していく練習です。生徒たちは、必死に、でも楽しそうに勉強している。

次は、1分間で何語(Words)読めるかの練習です。授業ごとに読める単語数は着実に増えていっているそうです。だから、楽しいのでしょう。

○11:25～ おさらい

今日習ったところの「おさらい」です。ビデオを流します。

こんな具合で、たいへん「テンポがいい授業」でした。5分ごとに手法が変わります。先生は、電子情報ボードの「操作できる」という機能を多く使っていました。マークしたりアンダーラインを引いたりという「書き込める」機能も少し使っていました。文章や単語を表示したり、隠したり。ネイティブスピーカーの発音をタイミングよく出力したり、場面をわかりやすく説明する動画(ビデオ)を即時に再生したりする操作を、電子情報ボードにペンでタッチすることで実行していました。

授業が終わった後で、サービス精神旺盛な先生はこんな風にコメントを残して、次の授業に飛び出していかれました。

「電子情報ボードのいいところは、

- ・すぐに使えるようになること
- ・動画が見れること
- ・実物投影機と併用できること
- ・音声簡単に再生できること
- ・子どもの顔を見ながら操作できること
- ・(電子ペンなので)白板のペンのようにすぐ消耗して書けなくなることがないこと

です。」

実際、先生は最初の授業で、立派に使いこなしておられました。2回目となる5時間目の授業では、「もう何年も使っているんだ!」と思わせるくらい自信に満ちた活用ぶりでした。

そうそう。今日の授業のテーマは「バリヤフリー」でした。

「車椅子の人が利用しにくい陸橋を作っても、それは何の役にも立たないのだ」ということを説明する写真を写しながら、授業の最後をこんな言葉でまとめられたのでした。

ー 相手の立場に立って考え、生活する ー

以上

=====
編集・発行：財団法人コンピュータ教育開発センター 関 幸一
e-黒板ニュース メールアドレス： ekokuban@cec.or.jp
e-黒板研究会 ホームページ： http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban/
=====